

みずいろ通信

Vol. 3

2020年
3月発行

トレードマークの
みずいろTシャツ



早いもので、もうすぐ今年度も終了します。2月に入り、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止になるなど、残念なこともありましたが、今年度はさらに里親相談会に
来場される方も増え、里親制度への関心の高さがうかがえ、啓発活動が実を結んだ
ことを実感しました。来年度も引き続き、里親支援専門相談員（4S）として、い
ろいろな方々と協力しながら、活動していきたいと思ひます。



★里親相談会(イオン野田阪神店にて)をしました！

1/26 (日) 13:30~16:30

週末里親希望 3 組、養子縁組里親希望 4 組、養育里親希望 1 組の 8 組の方が相談
に来られました。来場のきっかけをお聞きすると

「子どもがないので、養子を考えたい」「施設にボランティアに行っていて興味がある」

「子どもが巣立ったので何かお役に立てることがあったら」など様々でした。

その中でこんな質問がありました。

Q 里親の申し込みから里親登録まで、どのぐらいの期間がかかりますか？

A 1 年程度みて頂く必要があります。

Q 共働きですが仕事を休まなければいけませんか？

A 子どもを保育所に預けて養育することができますが、特別養子縁組の場合、子どもとの関係
を深めて頂くために、ご夫婦いずれかに一定期間お仕事を休んでいただくことが必要です。



☆元里子さんの話を聞いて… 2/22 北区ちゃやまちプラザ



大阪府立大学の伊藤嘉余子先生と元里子のトークショー*に興味があり、参加しました。

元里子は小6~高3まで里親のもとで暮らした後自立され、現在は 27 歳で結婚し、子どももいらっ
しゃいます。自分の家で暮らしていた時は生活習慣が整っておらず、学校も休みがちだったとのこと。里親
家庭で暮らすことになり、初めてそれが普通じゃなかったと感じ、そのギャップがしんどかったと振り
返ってらっしゃいました。日常生活の事で里親と揉めることが多く、お互いの関係が緊張状態の時期もあ
ったようです。「里親は、新しい文化、生き方を教えてくれる人」とおっしゃっていました。

これから里親になる方へのメッセージを聞かれると「興味本位ではなかなか務まらない
し、ものすごいモチベーションと覚悟が必要。里子と生活する中で、ぶつかることも多い
が、そういうプロセスを乗り越えたからこそ、里親と一生の関係ができた」と力強く発言さ
れ、立派に成人された姿に感動しました。



*大阪中央ロータリークラブ・大阪そねざきロータリークラブ主催「児童虐待防止・里親啓発事業 Hug The Children
~未来ある子どもたちのために~」イベントのプログラム

★里親登録前研修の施設実習ってどんなことするの？



里親登録前研修の一つとして、3日間の座学の他に施設での実習（オリエンテーション+2日間の現場実習）があります。

四恩学園・四恩たまみず園（児童養護施設）で実習する場合について説明しましょう！

<オリエンテーション（2時間）>

「①施設の概要についての説明 ②心得や実習ポイントについての確認 ③施設見学」を行なっています。確認事項として、現場実習では食事の配膳をして頂いていますので、検便を必ずする必要があります。事前に検査機関（病院等）を探して、検便結果を施設に提出します。最近をご自分でインターネットで検便キットを取り寄せられる方もいます。

<2日間の現場実習>

1日目は幼児グループ（2歳～6歳）で実習します。8人のホームに入り、遊びや食事を一緒に体験します。2日目は、男性は男子学童グループ（小・中・高校生の縦割り16人程度）に、女性は女子学童グループ（小学生8人程度）で実習します。幼児同様、遊びや食事を一緒にしたり、話し相手や時には宿題を見てもらう事もあります。こども達と一緒に過ごす中で、職員とこども達の関係や職員の声掛けの仕方、施設ならではの工夫や家庭生活と異なる点などを見てもらい、施設を知る機会にして頂けたらと思います。とにかくこども達と積極的に触れ合い、こども達の発する言葉であったり態度を肌で感じてもらい、社会的養護のこども達に想いを馳せて頂きたいです。

編集後記

～おかえり



～

★素敵な出会いがありますように…

特別養子縁組希望のAくんの「あなたの愛の手を」(※)の取材が施設でありました。Aくんの一番いい顔を撮影しようと、記者の方はAくんに「かっこいいね！いい顔してるね！」と言いながら、シャッターを何度も切られていました。Aくんは、記者の方に大好きな戦隊モノのヒーローポーズをお願いされると照れながらも、可愛く決めポーズをしていました。

どうか里親さんとの素敵な出会いがありますように…

※ 家庭養護促進協会が色々な事情で親が育てられないこども達を、毎日新聞の協力のもと、毎週日曜日の朝刊「あなたの愛の手を」で紹介し、こどもたちの里親を募集する記事。

★宝じが当たったような体験

養育里親のBさんは「里子を育てるという事は、宝じが当たったような素晴らしい体験」とおっしゃっていました。これまでに苦労や上手いかないことが多い分、感動や喜びが大きく、人生を豊かにしてくれる体験だったのだろうと想像しました。大阪府立大学の伊藤嘉余子先生は「社会的養護の子ども達を守り、支援する選択肢の一つが里親。里親は資格でも職業でもなく里親という生き方」と講演で語られていました。

これからもっと里親が広く周知され、こども達にチャンスが広がることを切に望みます。

（取材担当者：宮澤）